



学校だより

令和5年4月7日

横浜市立菅田の丘小学校

校長 若山 京子

4月号

[卯月 April]

「みんな花笑み」

- 「知」 主体的に考え粘り強く取り組む子を育てます。
- 「徳」 自分を大切に、互いの違いを認め合える子を育てます。
- 「体」 心身ともにたくましく生きていく子を育てます。
- 「公」 まちを愛し、人とつながり、ともに創造する子を育てます。
- 「開」 広い視野をもち、自分の思いをのびのびと表現する子を育てます。

ウェルビーイングの実現

校長 若山 京子



正門の花壇に咲く色とりどりのチューリップが春風に揺れて、令和5年度の始まりを歓迎しているようです。菅田の丘小学校では、3月に91名が巣立ち、新たに1年生90名を迎え全校児童503名で新年度がスタートしました。お子さんのご入学、ご進級を心からお祝い申し上げます。学校生活における新型コロナウイルス感染症拡大防止のための対策については、今後、感染症法上の位置づけが変わることに伴い緩和されることが見通されますが、引き続き

手洗い、換気等、基本的な感染対策に留意し、子どもたちの健康と安全、学びを守ることを第一に考えてまいります。今年度は、旧菅田小学校の校舎での学校生活が最後の年となります。次年度には旧池上小学校跡地に建つ新校舎に引っ越しとなります。今の校舎での学校生活が思い出深いものになるよう、日々の教育活動の充実に向けて取り組みます。保護者、地域の皆様には、今年度も本校の教育活動にご理解、ご協力を賜りますようどうぞよろしくお願いいたします。

さて、昨今「ウェルビーイング」という言葉をよく耳にします。「ウェルビーイング=Well-Being」と言い、直訳すると「良い状態」ですが、「幸福」とも訳されます。「ウェルビーイング」とは「心と体と社会の良い状態」を表す概念で、「自分の幸せを考えながら、みんなの幸せも同時に考えて、社会全体で持続的な幸せをめざす」という状態のことを言います。学校においても「一人ひとりの多様な幸せと社会全体の幸せ（ウェルビーイング）の実現」を目指し、学習者が主体となる教育への転換が問われています。埼玉県上尾市の公立小学校長である中島晴美さんは著書「ウェルビーイングな学校をつくる」(教育開発研究所)で、「ウェルビーイング」な学校とは、学習や様々な活動を通して学校全体の「ウェルビーイング」が高まり、みんなが幸せになれる学校なのだと思います。「みんなが幸せになれる学校」とは「子どもが毎日行きたい、教職員も働きたい、と思える、保護者も子どもを通わせたいと思える学校」で、まさに菅田の丘小学校が目指す「みんな花笑みの学校」なのです。

新年度の始まりにあたり、教職員一同、新しい環境の中で過ごす子どもたちをしっかりと見守りながら、安心して学習や生活ができる学年、学級づくりを進めてまいります。子どもたち一人ひとりに居場所があり、どの子どもも「明日も学校へ行きたい」と思えるような学校づくりを進めてまいります。子どもたちにとって、「居場所がある」ということは、一緒に楽しく学び、遊ぶ友達がいること、自分にしっかり寄り添い、理解してくれる人がいる、ということです。また、様々な学習で、人と豊かに関わり合いながら、子どもが主体的に考え、課題に粘り強く取り組めるよう活動を工夫します。子どもは、「わかった」「できた」「誰かの役に立った」という喜びや達成感を味わうことで、自分自身の成長を感じることができると考えます。「居場所がある」「勉強が楽しい」「関わり合いが楽しい」と感じられる充実した日々の積み重ねが、子どもの「ウェルビーイング」を高めるのだと思います。

中島さんは著書の中で、幸せな大人の姿(Being)を見て、幸せになる力をもった子どもが育つ、と言います。教職員も、保護者・地域の方々も、自分自身の「ウェルビーイング」を高め、ともに手を取り合い、子どもたち一人ひとりが「ウェルビーイング」を実現できるよう育ててまいりましょう。どうぞよろしくお願いいたします。

